

経営比較分析表（令和4年度決算）

埼玉県 所沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料(円)	
-	81.17	100.00	2,134	

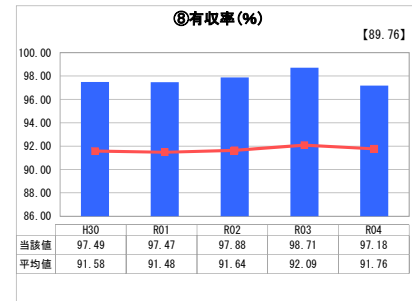
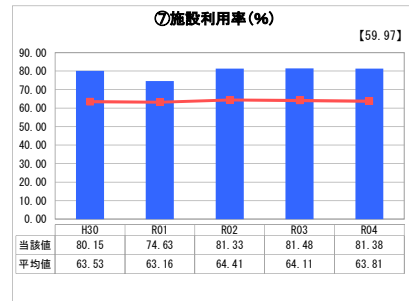
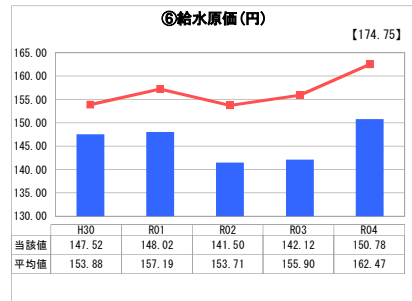
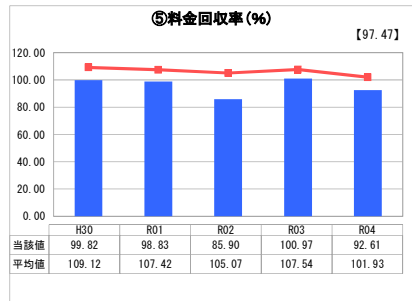
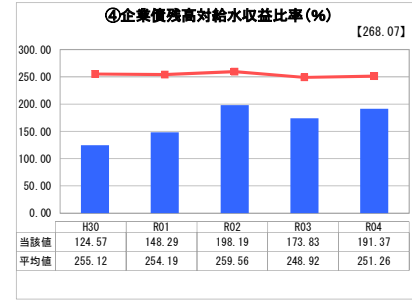
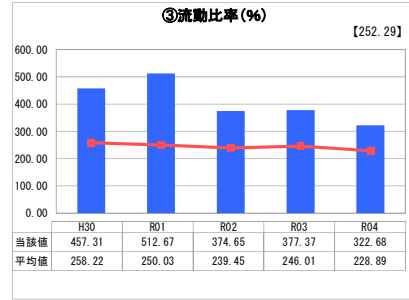
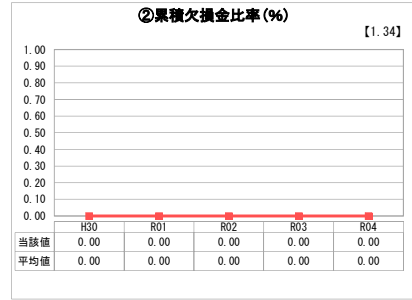
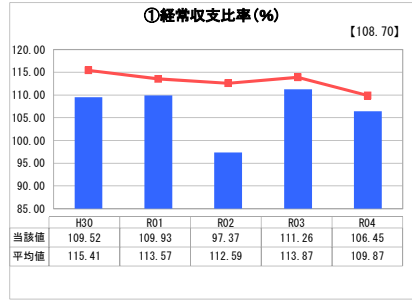
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
344,070	72.11	4,771.46
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
343,851	67.64	5,083.55

グラフ凡例

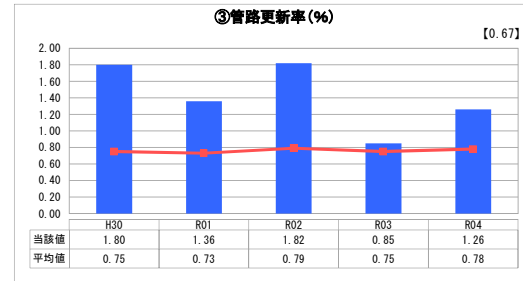
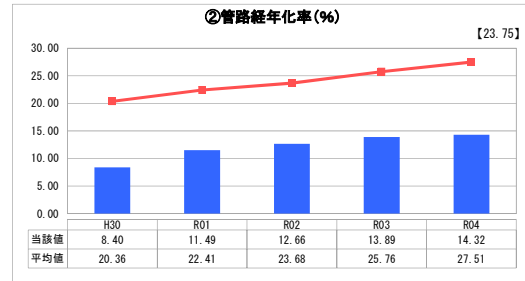
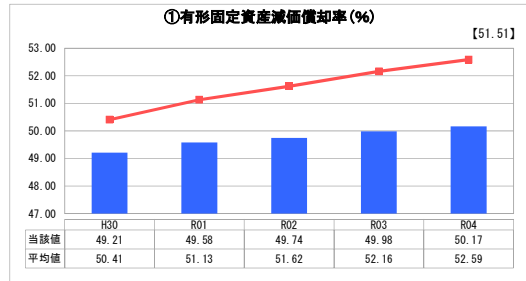
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
望ましいとされる100%を超えておりますが、対前年比で値が減少しています。これは、新型コロナウイルス感染症に対する規制緩和に伴い、外出の機会が増えたことで配水量が減少し、給水収益が減少したことや、物価や人件費の高騰による支出の増加等があったことが影響していると考えられます。
- ② 累積欠損比率
累積欠損金は発生していませんが、給水収益が長期的に減少傾向にあり注意が必要となります。
- ③ 流動比率
支出の増加等があったことから、指標が悪化したものですが、望ましいとされる200%を超えており、支払能力はあるといえます。
- ④ 企業債残高対給水収益比率
給水収益が減少したことによって指標が悪化したものですが、類似団体平均と比べ健全な状況です。
- ⑤ 料金回収率・⑥ 給水原価
配水量が減少したことにより、数値が悪化したものです。今後は更に費用の増大が予想されるため、料金回収率の悪化が見込まれます。
- ⑦ 施設利用率
類似団体と比較し良好な数値ですが、一日平均配水量は減少傾向にあるため、施設のダウンサイジングなど水道施設の規模適正化が引き続き必要です。
- ⑧ 有収率
類似団体と比較し良好な数値を保持しています。適正な維持管理や老朽管の更新等を計画的に行っていることが、有収率の高さに繋がっています。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
使用年数が法定耐用年数の5割程度を経過している状況です。事業費の平準化を図りつつ、計画的に更新していく必要があります。
- ② 管路経年率
計画的な管路の更新を行っているため、類似団体と比べ、老朽化の度合いは低い状況といえます。しかし、値は増加傾向にあるため、着実な更新をしていく必要があります。
- ③ 管路更新率
類似団体と比較すると、更新投資は多い状況にあり、当市の有収率の高さに繋がっていると考えられます。

全体総括

令和4年度は、経常収支比率及び流動比率から、事業経営は概ね健全であり、支払能力も十分にあるといえます。

しかしながら、材料費や光熱費等の物価高騰により、工事費や維持管理費等の経費が増加し、料金収入で賄うべき必要経費を賄うことができておらず、全ての指標において、数値が悪化している状況です。

今後この傾向は続くものと見込んでおり、適正な水道料金のあり方を検討する必要があると考えます。

施設については、老朽化の進行が続いていることから、財政状況を踏まえながら引き続き計画的に更新を進めていくとともに、水需要の減少に応じたダウンサイジングなど、施設規模の適正化に取り組み、将来に渡り安定供給に努めていく必要があります。

経営比較分析表（令和4年度決算）

埼玉県所沢市 市民医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	6	-	ド訓	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
344,070	6,246	非該当	非該当	10:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪審制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
49	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	49
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
38	-	38

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の病院・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

埼玉県西部区域にある当センターの果たすべき役割として、在宅医療の後方支援、所沢地区での第二次救急医療体制の病院輪審制への参加、医師会やその他の医療機関の協力により1年365日対応可能な小児初期救急医療体制の維持、健診事業による市民の健康保持・増進への貢献があります。また、地域での回復期機能病床の不足解消に向けて平成30年1月より急性期機能病床の一部を地域包括ケア病床機能に転換しました。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、コロナ禍における安定的な運営のために繰入金を増額したことや、患者数の増に伴い医療収益が増加したことなどにより100%を上回り、類似病院平均値も上回る結果となりました。
 ②医療収支比率は、新型コロナウイルス感染症の第7波及び第8波により発熱外来患者が増えたこと、入院患者や人間ドック受診者等が回復傾向にあったことなどから、医療収益が増加し類似病院平均値を上回りました。
 ③病床利用率は、類似病院平均値を上回りました。今後も地域包括ケア病床をより効率的に活用することで、病床利用率のさらなる向上に努めていきます。

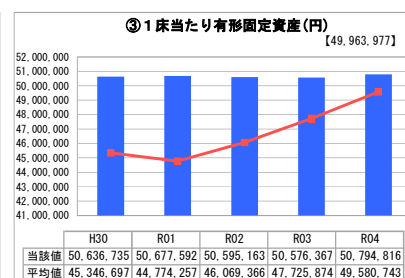
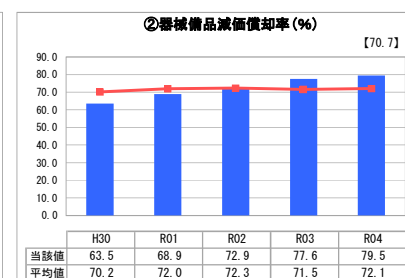
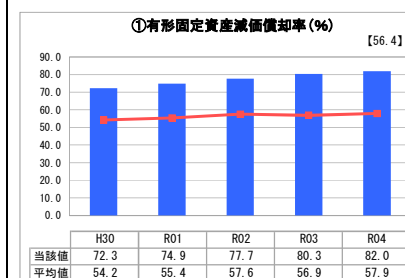
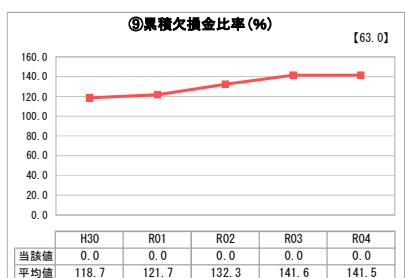
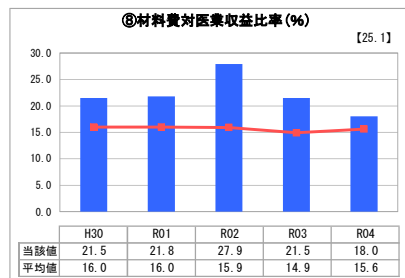
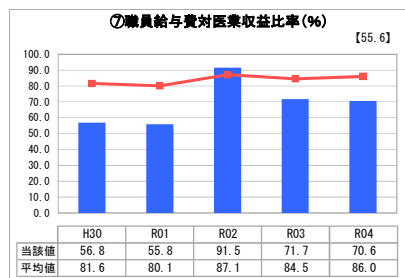
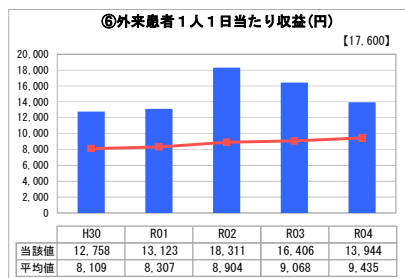
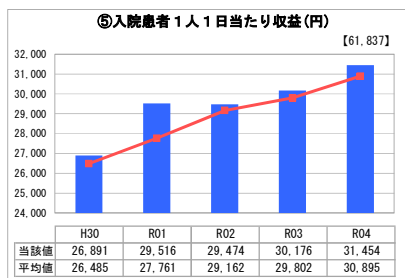
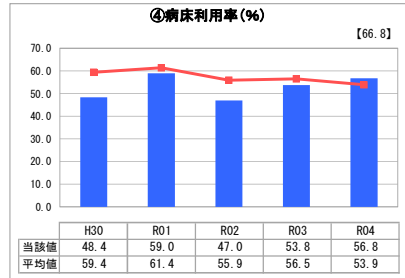
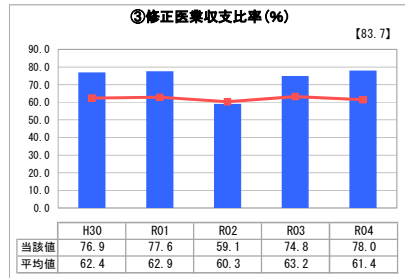
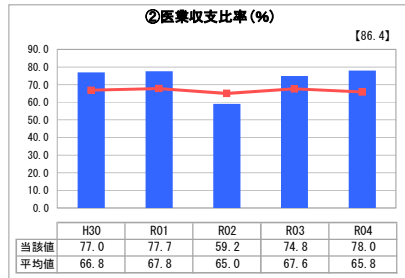
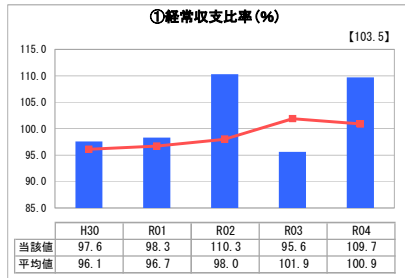
2. 老朽化の状況について

①～③いずれの項目も類似病院平均値を上回っており、施設の老朽化が進んでいると言えます。
 当センターは昭和51年度に建設されたもので、周辺設備も含め老朽化が進んでおり、①有形固定資産減価償却率が高くなっている原因の一つとなっています。施設の老朽化が進むにつれて、費用も増加傾向にあるため、施設の整備など適切な対策を講じていくことが必要です。
 ②器械備品減価償却率についても、同じく医療機器等の老朽化により、上昇傾向にあります。

全体総括

本年度は、患者数の増などにより、経常収支比率・医療収支比率がともに前年度から改善しました。
 また、新型コロナウイルス感染症対策として、発熱外来、退院基準を満たしたものの引き続き療養が必要な入院患者の受入、ワクチン接種業務などを継続するとともに、院内でのPCR検査が可能な自動遺伝子解析装置の整備により検査体制を強化するなど、公立病院としての役割を果たすよう努めました。
 病院事業の経営にあたっては、引き続き厳しい状況が想定されますが、公立病院として地域の中で必要とされる役割を、安定的・継続的に果たすとともに、医療収支の改善をはかるよう引き続き努めていきます。

1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和4年度決算）

埼玉県 所沢市

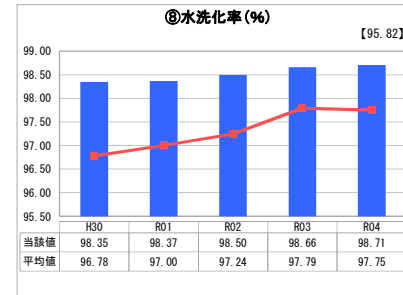
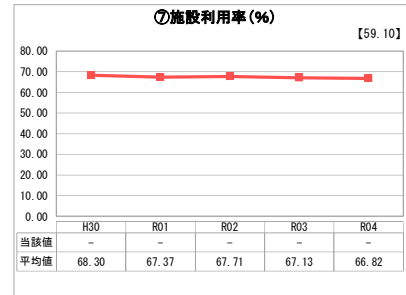
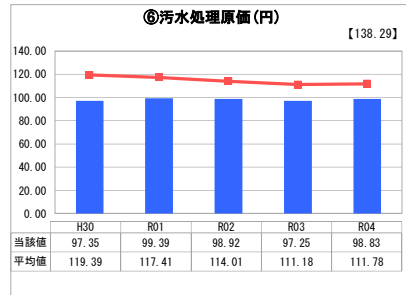
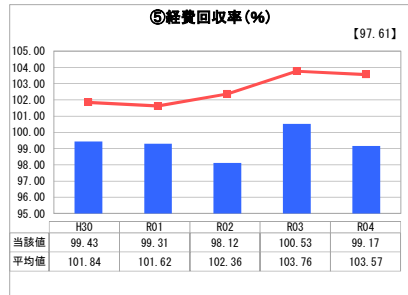
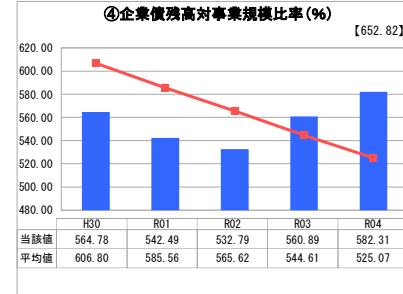
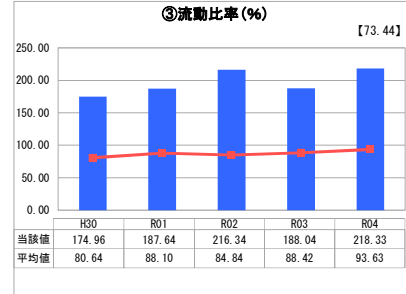
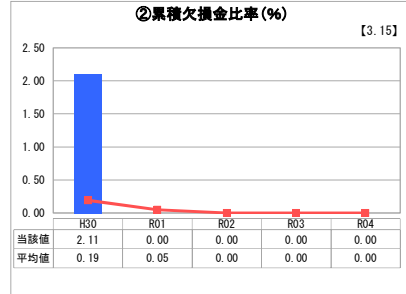
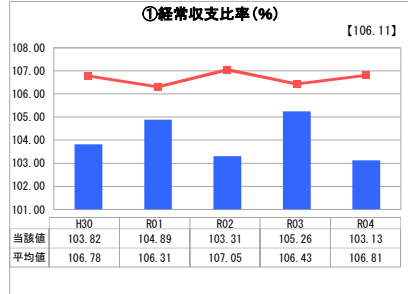
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ab	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	75.95	95.11	95.15	1,639

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
344,070	72.11	4,771.46
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
327,050	33.24	9,839.05

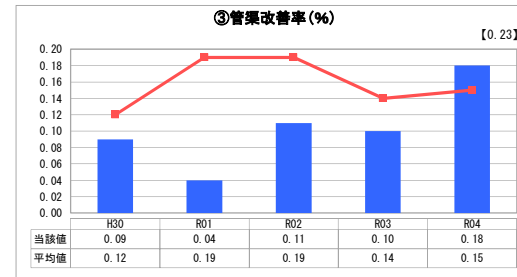
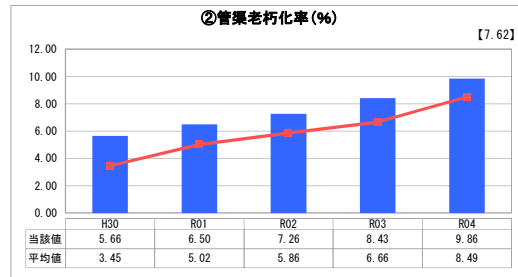
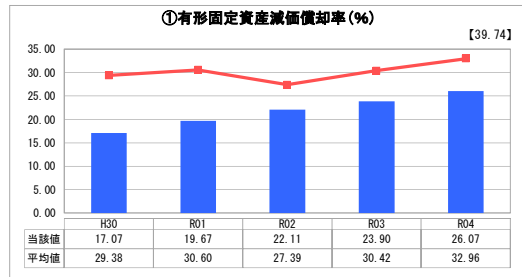
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
数値が100%を上回り、経営の健全性は保っていますが、今後も自己財源の確保と支出の削減等、より一層の経営改善が必要です。

② 累積欠損金比率
平成30年度の使用料改定により経常利益が確保され、令和元年度に繰越欠損金が解消されました。

③ 流動比率
望ましいとされる200%を超えておりますが、今後も管路施設の布設、修繕、改築、耐震化等が予定されていることから、引き続き自己資金の確保に努めていく必要があります。

④ 企業債残高対事業規模比率
企業債残高が増加し、数値が増加しています。後年度の負担が過大にならないよう、企業債の活用について、検討する必要があります。

⑤ 経費回収率
100%にわずかに達してはおりませんが、依然として分岐点付近を推移していることから、引き続き経費削減に努める必要があります。

⑥ 汚水処理原価
類似団体平均を下回っていますが、物価高騰等による費用の増加が見込まれるため、今後も引き続き経費削減に努める必要があります。

⑧ 水洗化率
横這いの状況が続いているため、接続率100%に向けて、引き続き水洗化の促進活動に取り組む必要があります。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
数値は低いものの、減価償却が進んでいる状況下において施設の老朽化は進行している状況です。老朽化対策に向けて、施設の点検・検査により現状の把握に努め、施設の安定稼働に向けた取組は必要です。

② 管渠老朽化率
類似団体と比較すると高い水準にあり、数値も上昇傾向にあります。今後も高くなるが見込まれるので、老朽化の状況を把握しながら、緊急度の高い管渠について、計画的に更新を進めていく必要があります。

③ 管路改善率
類似団体と比較すると低い状況にありましたが、今年度の数値は上昇しています。老朽化している管渠は、着実に増えているので、今後は更新のペースを高めていく必要があります。

全体総括

経営状況として、令和4年度は経費回収率が100%前後を維持しており、自立した経営ができるよう経費の削減に努め、中長期的な財政状況の把握に努める必要があります。

管渠の老朽化による道路の陥没や、下水道施設の破損が生じないよう、ストックマネジメントの考え方にに基づき、限られた財源の中でも計画的に更新を進め、持続的にサービスを提供していく必要があります。

今後の経営上の課題は、人口減少による下水道使用料収入の減少が見込まれます。急激な減少は見込んでいませんが、収入と費用の均衡が図れず、企業活動のための必要な資金の確保が難しい時期が見込まれた際は、下水道使用料のあり方について検討をする必要があります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。